



H. ストンメル 著
E. ストンメル 訳
山越幸江 訳
火山と冷夏物語

Volcano Weather
—The Story of 1816, The Year
without a Summer—
地人書館, 1985年6月刊, B6判
238頁, 定価 1800円

気候変動や火山爆発と異常気象・凶作・悲惨な社会的混乱に関心をお持ちのAさんへ。私は昨日、東京からの帰りに新幹線の中で面白い本を読みましたので、ご紹介します。私はこれまで、日本では冷夏のために起こった最も悲惨な年は1783年に始まる天明大飢きんと1836年の天保大飢きんであり、ヨーロッパのフィンランドとエストニアでは1695～97年（日本の元禄大飢きんと一致）、アイスランドでは1783年（日本の天明大飢きんと一致）であることを知っていました。ところが、この本から、1816年は特にアメリカ東北部とヨーロッパではものすごく恐ろしい年だったことを知りました（ヨーロッパで飢きんがあったことは知っていましたが）。1816年はその前年にインドネシアのタンボラ火山が大爆発しています。この爆発はスミソニアン博物館の見積りでは、過去1万年で最大規模です。

著者は、かの有名な海洋物理学者で“Kuroshio”の編者でもあるストンメルとその夫人であり、古い日記や新聞記事など多くの資料から、1815年の火山爆発後に起こった異常低温、飢きん、社会的混乱、疫病というような恐るべき数々の出来事を語っています。

私が面白いと感じたのは、アメリカのホワイトハウスがなぜそのように呼ばれるようになったかの経緯が分かったこと、辞書を編纂したあのウェブスターが当時の雑誌に、1816年の冷夏を考えるにつき、人々が木材を燃料に消費するため間もなくエネルギー危機がニューヨークを襲うのではないかと指摘していること（これは不思議にも今日の問題にも通じる）。また、ヨーロッパでは飢きん、暴動、盗賊がはびこり、アメリカ東北部では食糧不足で樹皮の内側まで食べて餓えをしのいだこと（日本の昔の飢きんとそっくり）。農業不作で1816年は東北部から西部へ移住する者が急増し、ある者は徒歩で、また、馬で、あらゆる種類の乗り物を使って、旅をしていたこと（日本の東北で明治38年の大冷害で多くの人々が北海道へ移住した史実を連想）。1800年から最近までの約170年間、ニューヨークの小麦価額が1ブッシェル当た

り1～2ドルの間を変動していて、2ドルを超えたのは1816年の冷夏の翌年だけであること（最近では1973年の石油ショック後4ドルに上がっている。私は、別の意味で驚いた。何故なら日本では、米価は1800年から戦前まで1升当たり1銭以下から40銭まで変動、最近では約700円まで上がったのに対し、アメリカの麦価変動があまりにも小さい）。

遠いインドネシアで起こったタンボラ火山の爆発のことはだれも知らなかったので、1816年のアメリカ東北部とヨーロッパの異常低温は、太陽黒点の発生と結び付けて考える人が多かったようです。実際、日の出と日没の頃には肉眼でも黒点をはっきり見ることができたので、この黒点が地球の気温の低下と何らかの関係があると考え、極端な場合には、世界終末論までとび出し、フランスの一人婦が自殺したこともありました。この時期に、太陽黒点を日誌につけるアマチュアが多数現れましたが、それには、太陽の光がタンボラ火山の噴煙に遮られて僅かに暗くなり、黒点が普段よりも見えやすくなったとも考えられる、と述べられています。そのほか、当時は避雷針が気候変動の原因だとか、いろいろな珍説が出たそうです。

最後に、気候変動の原因をこれだと断定することの難しさが述べられています。以上の事に私は面白さを感じました。多分あなたは、私とは違った点にも、面白さを見出すでしょう。この本の前半には、1816年当時のアメリカ農民の生活や作物の価額変動が記されています。訳者によればこの部分は主題から離れているのでカットしようかと思ったようです。しかし、私はこの部分は大事と思うし、また面白いとこでした。これは著者（海洋物理学者であり、夫人はオルガン奏者・ドレスデザイナー・病院看護問題の評論家）と訳者（文学部出身で科学技術関係の翻訳家）との間で年齢や専門の違いによるものでしょうか？

この本は1980年のセントヘレンズと1982年のエルチチヨンの噴火で、気候における噴火の重要性および異常気象の社会への影響が認識され、昔のタンボラ火山爆発が再び注目を浴びるようになったので著わされたのでしょう。なお、この本の目次は以下の通りです。「世界中の気温を下げた火山噴火、1816—凍死一年、ヨーロッパに広がった飢きん、苦闘する農場の生活、ニューイングランド地方の災害の実状、1816年の収穫、鯖の年、苦闘する農場からの脱出、大げさな言い伝え、コレラの流行、避雷針原因説と太陽黒点説、記録についての私的な見解、因果関係を究明する。」（近藤純正）